ザ・AZABU
Community Information Paper
No.40 June 22 2017
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812　ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710
麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙

屋上テラスや玄関左右にバラスター（球根や円盤を積み重ねた形状の欄干）を施し、窓や柱を多用し立体感を強調した建物正面。
写真提供：アフガニスタン大使館

アートな麻布に魅せられて⑬
アフガニスタン大使館

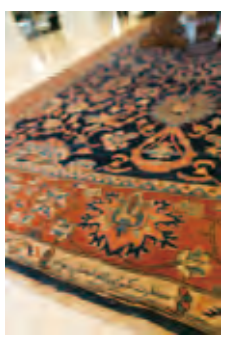
麻布台の閑静な一角に佇む駐日アフガニスタン大使館は、隣接する建物もなく、切り立った地形に突如現れた宮殿のようだ。代々木上原からこの地に移転してきたのは2008年7月、中央官庁合同会議所の建物を全面改築して、エキゾチックで優美な大使館が完成した。

正面側が地上2階と屋上塔屋、裏手に回ると執務室など地下2階部分が現れる実質4階建ビル。塔屋の向こう端（国旗ポールのあたり）に小さなドームが見える（2008年撮影）。 写真提供：アフガニスタン大使館

アタン（と呼ばれるアフガニスタンの伝統的ダンス）に興じる若者を描いたYar Tarakyの作品。館内にはこの他パーミヤンの石窟など数点の絵画が飾られている。 写真提供：アフガニスタン大使館

エントランスホール：右手に13世紀の高名な詩人マウラナ・ジャラルディン・モハマド・ルミ・バルヒの名を冠したホールが広がる。左手の階段吹き抜けは人気の撮影スポット。

図書を閲覧するバシール・モハバッド臨時代理大使。アミン元大使の指示で移転プロジェクトを主導した。完成当時を振り返り、「多くの困難を乗り越え、皆の努力が実った感激を懐かしく思い出す」と話す。時代のシンボルは後方の柱に。



主なカーペットに「駐日アフガニスタン大使館」のサインが織り込まれている。

白い漆喰壁が眩しいエントランスホールの天井には太い木の梁（はり）が等間隔に渡され、来訪者を建物の内部に誘う。館内に入るとすぐ右手には屋上のドームまで続く螺旋（らせん）階段、左手には一度に300人を迎え入れるホールが広がっている。

床に敷き詰められた色彩豊かな絨毯は、本国から取り寄せた特注品だ。壁に飾られたアフガニスタンの画家Yar Taraky（ヤール タラキ）やSiddig Zhakfar（セディック・ジャクファー）の絵画が絨毯と共に民族色を添えている。屋上に設けられたテラスからは、東京タワーの雄大な景色を間近に楽しむことができる。

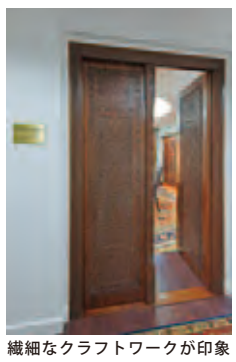
地下1階の図書室には、公用語のダリー語・パシュトゥー語、英語や日本語の蔵書が4000冊以上ある。部屋の四隅の柱の上部に、アフガニスタン史上重要な4つの時代を表す彫刻（ゾロアスター教の植木鉢、グレコ・バクトリア＊の松明（たいまつ）、仏教の蓮、イスラム教の格子模様）が見られる。シルクロードの要衝アフガニスタンならではの意匠だ。

中央アジアの内陸国アフガニスタンは、先史時代から西のメソポタミア文明、南のインダス文明の影響下にあり、アレキサンドロス大王の大遠征によってヘレニズム文化が形成された地である。

正面のガニ大統領閣下の写真の両側にアフガニスタンと日本の国旗が飾られたフォーマルな応接空間。

歴史を下れば日本への仏教の伝播もアフガニスタンのシルクロード経由とされ、共に緑茶を飲み、冬は炬燵（こたつ）で暖を取るなど意外な共通点もある。日露戦争に勝利した東方の島国への共感は熱く、明治以来、軍人、政治家、王族、皇族の往来が相次いだ。1933年に駐日公使館(後に大使館に昇格)が飯倉に開設され、90年代後半からは一時期内戦の混乱で事実上閉鎖、紛争終結後の2002年に業務が再開された。この年にはアフガニスタン復興支援国際会議が東京で開かれた。

2006年、当時のハルン・アミン駐日大使等から新大使館の移転を相談されたのが、コンサルタント村上謙一郎さん。「過去・未来の友好関係の象徴として、いつまでも新鮮さを保ち続ける建物というコンセプトのもと、民族色を抑えた普遍的なデザインにした」と話す。大使館職員らが「世界中のアフガニスタン大使館の中で最高の機能美」と胸を張る建物は、数十年の時を経て麻布の地に戻り、アフガニスタンの魅力を伝えている。



繊細なクラフトワークが印象的な図書室の扉は、カブールでアフガン工芸職人によって制作されたもの。
写真提供：アフガニスタン大使館

●取材協力

駐日アフガニスタン大使館
　バシール・モハバット臨時代理大使
　文化広報担当　アリソン・ディアスさん
　経理・庶務　アシュラフ・バブリさん
コンサルタント　村上謙一郎さん

＊紀元前3世紀頃、バクトリア地方に栄えたギリシャ人国家。

一般家庭では床に絨毯を敷いて着座する。低めの座椅子とテーブル上の民族色溢れる小物がアフガニスタンらしさを演出。

（取材／出石供子、大澤佳枝、加生美佐保、高柳由紀子、米沢恵美　文／出石供子）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

古川橋病院
二代目院長 鈴木達雄（たつお）さん（94）
三代目院長 鈴木幸雄（ゆきお）さん（63）

父から息子へ、院長三代の歴史

古川橋病院（南麻布２丁目）のパンフレットの表紙には「未来を視野に、高齢者福祉と医療の一体化を実践する医療法人です。」との文言がある。今回2代目・3代目院長お二人のお話を伺い、そうした未来を見据える進取の気性が脈々と受け継がれていることを実感した。

手前から時計回りに「現在の病院建物」「改築前の同建物」「初代院長・鈴木篤真さんが勲五等瑞宝章受章時（88歳）に出版した半生記」「開業90年の折に制作された資料集」

（達雄さん）「私は大正12年6月2日生まれです。6かける2は12。覚えやすいでしょ。僕の親父はね、明治29年5月1日生まれ。大正13年、古川橋医院開業当時の写真がありますよ。今の場所とは少しだけ離れた新堀町*。膝に抱かれた赤ん坊が僕。親父は進取の気性があった人でね、農家を継ぐのが嫌で、本当は政治家になりたかったのだけれど、獣医になり、それに飽き足らず医者になるために東京に出てきました。田舎の両親は田畑を売って学費などに充てたそうですが、親父は病院をつくって成功した後、また元どおりに買い戻したそうです。この銅像は70歳の古希の祝いの時に作ったから、95歳で亡くなった時よりはだいぶ若いかなあ。厳しいけど話のわかる人でした。」

（上・左）初代院長・鈴木篤真（とくま）さん（1896-1991年）の銅像。

（上・中）1924（大正13）年 外科古川橋医院開業時（新堀町）

（上・右）1931（昭和6）年 古川橋病院新築時（新広尾町）

（右）左から鈴木達雄さん、篤真さん、幸雄さん（1974年頃撮影）

2代目院長・鈴木達雄さん。1946（昭和21）年慶應義塾大学医学部卒業。専門は胸部外科。

近所の仲間と「戦争ごっこ」に興じていたという幼少期を経て、達雄さんは旧制府立第一中学校から慶應義塾大学医学部予科に進んだ。そして太平洋戦争を迎える。

（達雄さん）「理科系の学生は特例で学徒動員を免れ、文科系の学生たちが鉄砲担いで出征していくのを逆側に居て送り出したものです。新広尾町*（当時）の病院は奇跡的に空襲で焼失せずに残りました。2代目の立場として、医者になることはレールが敷かれていた感じでしたね。」

…と語る一方、大学卒業後に医局から北里研究所に出張した頃の達雄さんは戦争直後とも言えるその時代ならではの冒険的な経験も積んだ。

（達雄さん）「昭和24年、船医としてイランまで行ってきました。石油運搬船、いわゆるオイルタンカーの船医の募集があったので僕が手を挙げたんです。イラン到着後、たまたま風邪か何かの高熱で苦しんでいた現地の人がいまして、頼まれてお薬をあげたらすごくよく効いて治って、とても感謝されました。すぐに噂が広がり大勢の患者さんが来てすごい行列。ひと騒動でした。お礼に何か、と言われたので『煙草を吸うのでライターに入れる石油がちょっと欲しいんだけど』って言ったらバケツにいっぱい持ってきちゃって（笑）。船には監督官としてアメリカの将校も同乗してましてね、航行中は何もすることがないから2人で言葉を教え合ってた。おかげでだいぶ英語の勉強しましたよ。それからね、昭和32年には3か月間沖縄に行きました。まだアメリカの統治下のね。当時は結核が日本の国民病で、外科的に結核の病巣をとる手術を頼まれたんです。100件くらいの手術をしました。月～金曜まで、毎日手術。症例を重ねて技能も上がりました。若いうちは国内では手術する機会に恵まれないのでいい経験でした。アメリカ本国ではドクターの社会的地位が高く、しかも専門医なので一段上の地位と思われ、人前で将校から敬礼されました。アメリカ人に対する劣等感があったんだけど、何だか溜飲（りゅういん）が下がる思いでした。」

（幸雄さん）「やがて昭和39年の東京オリンピックの前に高速道路を造る関係で、3階建のうちの病院は立ち退かなくてはならなくなり、東京都の計らいで現在の土地に移転しました。もっと広い遠くの候補地もありましたが、やっぱり慣れた地盤が良かったので。」

古川橋病院内ロビー。間接光や曲線を描いた柱や天井など、柔らかい雰囲気の設計。

1974（昭和49）年に達雄さんが2代目院長に、さらに1998（平成10）年には息子の幸雄さんが3代目院長を引き継いだ。その翌年には病院改築と同時に港区初の介護老人保健施設「ルネサンス麻布」も同建物内にオープン。医療と福祉を融合した施設経営へと大きく舵を切った。

（幸雄さん）「その頃、父が大病をした後で調子が悪く、3代目の私が中心になって計画しました。病院業界も厳しい時代に入り、うちぐらいの小さな病院がほとんどなくなりました。港区には大きい病院は結構あるけど小さい病院は3つくらいになってしまった。『このままだと先がない』という危機意識があり、『介護老人保健施設』を、区から補助金もいただき開設しました。『医療と介護の連携』という道を見出したわけです。続いて、“要介護”にならないためのトレーニングを行う、“要支援”の方々を対象にした介護予防機能訓練施設『エクゼ麻布』も始めました。さらにうちの特色として訪問診療も200人くらい請け負ってます。病院だけでやっていくのでなく、在宅医療に尽力したり、リハビリを通じて要介護にならないようにする、という意味で地域医療に貢献している意識を持っています。」

3代目院長・鈴木幸雄さん。1986（昭和61）年東京慈恵会医科大学院修了。専門は循環器内科。

（達雄さん）「老人は痛い痒いがしょっちゅうだからね。同じ建物の上（階）に病院があるから、リハビリに来る人も安心して来られるみたいですね。私も、息子がこういう形で病院を継いでくれて本当に安心しました。」

このような施設が身近にあることは、きっと周辺の住民にも安心感を与えてくれるだろう。

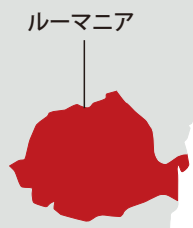
ちなみに達雄さんは毎朝、介護老人保険施設のフロアを見回り、食事中の入所者の方々から握手攻めにあうとのことだ。

＊新堀町・新広尾町共に旧町名で現在の南麻布2丁目内に位置する。

（取材・文／大村公美子）

タティアナ・ヨシペル駐日ルーマニア特命全権大使
Tatiana IOSIPER

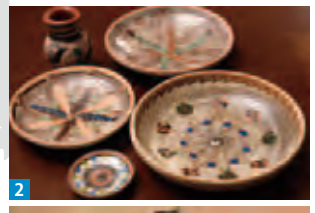
ルーマニア
面積：約23.8平方km
人口：約1,976万人（2016年）
首都：ブカレスト
元首：クラウス・ヨハニス大統領
（2014年12月就任、任期5年）
議会：二院制

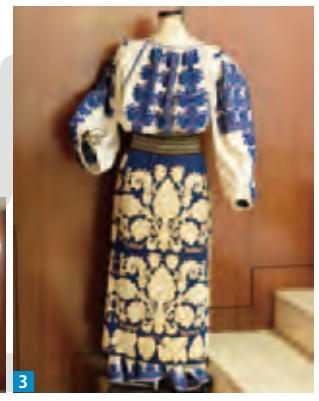


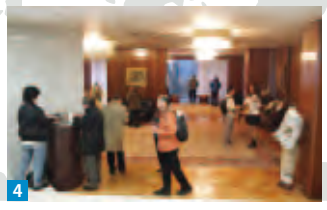
参考：外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/romania/data.html

取材協力／ルーマニア大使館

1


2


3


4

大使を訪ねて ㊵
麻布の"世界"から

ROMANIA

5

西麻布の地に40年。地域に開かれた大使館で、かつて日本に留学していた大使が活躍されている。

大使とお会いしたのは、何日か続いた夏日の一日だった。赤いノースリーブの素敵なワンピースを着た大使は、「今日はジャケットがいらない、いい陽気ね」とにこやかに挨拶しながら颯爽と現れた。昨年9月、大使の来日と時を同じくして駐日全権公使に就任された夫君と２人のお嬢さんとともに日本に赴任された。

日本語を学ぶ間に日本に恋をした

大使は、20年ほど前に日本に留学されていた。若かりし頃の大使が日本語を選択されたのは、「ヨーロッパの言語よりも挑戦しがいがあったから」とのこと。日本に滞在中に日本が大好きになり、今回、仕事で再度来日することが出来、とても嬉しく思っておられるのが伝わってきた。信任状捧呈式（しんにんじょうほうていしき）のため皇居に訪れたときは、その荘厳さと紅葉の美しさに感動され、とても謙虚な気持ちになったそうだ。鎌倉や静岡にも行かれ、改めて日本の自然の美しさに触れていると、輝く目で語ってくれた。

1990年代に女性が台頭してきた

大使は、ルーマニアからの駐日大使としては初の女性。1989年12月に政権が交代し、民主化するとともに、女性が社会進出するようになる。大使が外務省に入られたとき、女性は少なかった。今では、95人いる大使のうち19人が女性。ちなみに裁判官は、なんと73％が女性だとか！女性の政治家は１割程度だが、行政機関では幹部職員の45％、中間管理職の56％が女性。政治そのものの世界では女性は少ないが、政策策定には関心が強い女性が多いということだろう。

職場結婚も多く、国全体が共働きに理解があり、夫君が駐イスラエル大使に任命されたときは大使もともに派遣され、今回大使が駐日大使に任命されたときは夫君が一緒に派遣された。

現時点では、出生率は1.34と日本より低いが、政府の育児補助は給与の85％が2年間保障されるなど充実している。

ルーマニアのひとは日本が大好き

ルーマニアでは日本のアニメや漫画が大人気。日本語を教えている高校もある。毎年開催されるシビウ国際演劇祭では日本の能や現代劇も上映され、日本の文化に触れる機会が多い。首都ブカレストには日本食レストランが13店舗もある。

大使自身も和食は大好きで、魚はどんな調理方法でも食べられるそう。日本で食べるのがとりわけおいしいと感じるのは鍋物。特にすき焼きが大好物だとか。ただ、唯一苦手なのが生卵ということで、「すき焼き、生卵なし」と日本語で注文をするそうだ。

ルーマニアの伝統料理

ルーマニアの代表料理のサルマーレ（酢漬けのロールキャベツの肉詰めとサワークリームを煮込んだ料理）は各家庭で味が違う。代々伝わるおふくろの味だ。作るのに時間がかかるので、作るのは特別なイベントの時に限られる。ロールキャベツの代わりにピーマンやブドウの葉を用いることもあるそうだ。ママリーガと呼ばれる、トウモロコシの粉で作るパンのような穀物料理と一緒に食べられている。

また、クラティテ（クレープ）は簡単にでき、大使のお嬢さんたちも喜んで食べるのでよく作るそうだ。東京にあるルーマニアレストランは、錦糸町のラ・ミハイという貴重な一軒。

ルーマニアのリゾート地

学生時代にはマスメディアを専攻していた大使が、観光ガイドにはなかなか取り上げられない名所を紹介してくださった。まず挙げられたお勧めスポットは、首都ブカレストから200kmほどの小さな町、オクナ・シビウルイ。海に面していないこの町にある小さな湖は塩水なのだ。塩といえば、サリーナ・トゥルダと呼ばれる岩塩坑も挙げられた。ルーマニアには12,000以上もの鍾乳洞があり、ここの特徴は、巨大な洞窟の中に満たされた、澄んだ空気。塩が作り出す独特の光景に囲まれながら、体を癒す「パワースポット」のようなところだ。また、ルーマニアはヨーロッパでも屈指の温泉大国で、火山のあったハルギタやコバスナにはルーマニア人にも人気のスパリゾート。昨年はブカレスト郊外にもスパリゾートができてアクセスが便利になったらしい。

相手を気遣う温かなお人柄で、始終朗らかな笑顔の素晴らしい大使にお話を伺い、とてもフレンドリーな雰囲気の中で時間の経つのが早いと感じたインタビューだった。

麻布地区に40年前からあるルーマニア大使館は、港区のワールドフェスティバル開催時などに公開されていて、今後も地域との交流を深めていかれるとのこと。是非その機会にはまたお邪魔したいと感じた。

6

1 ルーマニアの木工製品：羊飼いの笛、木彫りのスプーン、木彫りの小箱。
2 釉（うわぐすり）をかけてから垂らした釉をひっかくようにして描かれる、伝統的な文様のあるホレズの陶器。
3 ルーマニアの繊細な刺繍が施された民族衣装。
4 港区ワールドフェスティバルのスタンプラリーの様子。
5 首都ブカレスト郊外のスパリゾート、テルメ・ブカレストの温泉プールThe Palm。
6 ぶどうの葉のサルマーレ（上）とルーマニア風のクレープ「クラティテ」。
7 オクナ・シビウルイの塩水湖。
8 サリーナ・トゥルダの岩塩坑。
4～8 写真提供：ルーマニア大使館

●大使館HP http://tokyo.mae.ro/jp

7

8

（取材／加生武秀、田中亜紀、畑中みな子、米沢恵美　文／加生武秀、米沢恵美）

麻布のみどりを探して②

夏到来！ 涼を呼ぶ麻布の自然 ガイドマップ

―麻布未来写真館の写真から―

いよいよ夏がやってきます。朝夕のひと時、涼やかなみどり（自然）の中に癒しを求めてみませんか。今回、麻布未来写真館分科会のメンバーの皆さんに、この時季おススメのスポットを教えていただき、撮影した貴重なお写真をお借りしました。

それをもとにオリジナルのガイドマップを作成したところ、麻布地域全体に多様なみどりが分散していることに、あらためて気づきました。地域の環境への関心が高いことのあらわれでしょうか、住宅街や大使館、大小の公園、お寺、神社の多くでは古い木を大切に保存し、再開発区域では街路樹が美しく整備され、モダンな景観をつくり出しています。また、川や池、湧き水など水にも恵まれ、様々ないきものが集まります。

ぜひ皆さんも、お気に入りの場所を見つけてくださいね。

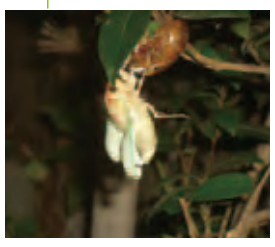
1 都立青山公園（南地区）の高台

外苑西通りに面したグラウンドの奥には静寂が広がる高台があり、梢越しに国立新美術館のガラスの建物が垣間見え、涼し気です。昭和62（1987）年建立の「麻布台懐古碑」には、この地の歴史、とくに戦中戦後について詳しく記載されています。

2 有栖川宮記念公園のイチョウ

麻布地区が誇るイチョウの樹です。年々大きくなり、下方の枝には手が届くほど。真下に佇んでみれば、大きな懐に抱かれているようです。都立中央図書館のロビーのガラス越しに見える景観も圧巻。黄金色に輝く晩秋にもぜひ訪ねてほしいスポットです。

3 有栖川宮記念公園のセミの羽化

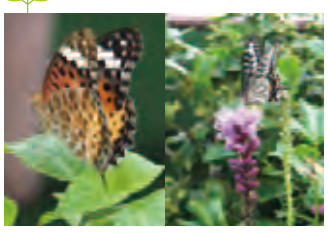


夕方18時頃からセミが地中の穴から出始めて木にのぼり、暗くなるにしたがってその数が増えます。この写真は20時頃の撮影で、場所は公園管理事務所の前の大木だそうです。早朝のセミの抜けがら探しもワクワクしますね。

4 麻布山善福寺 参道の柳の井戸

麻布の低地では浅いところに地下水が流れ、ここは自然と湧き出た清水です。苔や藻のゆらぎを見ているだけで癒されます。「麻布七不思議」のひとつで、古くは弘法大師が鹿島の神に祈願し錫杖（しゃくじょう）をつきたてたところ噴出したなどの伝説があります。関東大震災や空襲時の火災では区民を助けた命の水であったことも覚えておきたいものです。

草むらに舞う蝶たち



図鑑から抜け出したかのような、美しい柄の蝶に出会えるチャンスに期待しましょう。ツマグロヒョウモン（左）、ナミアゲハ（右）。

ガイドマップ

熱中症と蚊などにはご注意を！

朝夕の比較的涼しいころ合いを見はからってお出かけください。虫よけスプレー、帽子、タオル、飲み物などの準備も忘れずに。

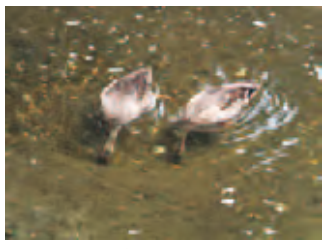
5 狸穴公園の狸穴稲荷大明神

麻布狸穴町の坂下の谷合（たにあい）に狸穴公園があり、3つの赤い鳥居が目印です。ソメイヨシノの木陰の下、短い坂と石段を上ると、狸穴稲荷大明神があります。この辺りは江戸時代から伝わる「麻布七不思議」のひとつに数えられ、かつて雌狸が棲む大きな穴があったなどの諸説が。神秘的な雰囲気に浸ってみては。

6 泉ガーデンの桜の街路樹

六本木一丁目駅と直結した新しい街、泉ガーデン。そのメインストリートの泉通りには、桜の街路樹が整備されています。アークヒルズ前のスペイン坂、桜坂とあわせて全長約1kmの並木で、真夏でも緑のアーチが心地よい散歩道に。

7 古川のいきものカルガモ



カルガモは川や池で一年中暮らす留鳥（りゅうちょう）です。日中は天現寺橋から狸橋あたりで、2羽がお尻を出して水底をつつき餌を食べているのを、よく見かけるそう。運がよければ親子連れに出会えるカモ！？

8 古川のいきものボラの大群

一之橋から新堀橋あたりは川が深く、比較的大きなボラを見られるそうです。古川橋付近までが東京湾の潮の満ち引きの影響を受ける干潮域で、潮が満ちるのと一緒に小魚の群れも亀屋橋付近まで上がってくる、というのも興味深いです。

9 麻布図書館の壁面緑化

建物の壁を植物で覆い断熱効果などが期待できる「壁面緑化」は、東京都ではヒートアイランド対策として位置づけられています。近年、麻布にも増えており、麻布図書館もその一つ。異なった種類の植物がミルフィーユ状にデザインされ、思わず見惚れます。

10 六本木ヒルズの毛利庭園

大名屋敷の庭園がルーツで、昭和に入りニッカウヰスキー、テレビ朝日が土地を取得、六本木ヒルズのオープンとともに誕生しました。イチョウやソメイヨシノなどの古木が様々な草花とともに池を囲むように配置され、14年の歳月を経てしっくりと融合しています。近代的なビルの谷間のオアシスです。

●取材協力／麻布未来写真館分科会のメンバーの皆さん　●写真提供／麻布未来写真館（平成22年～28年に撮影されました）　●参考資料／麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会　活動の記録（平成21年度～平成28年度）

（取材／加生武秀、田中亜紀　文／田中亜紀）

麻布未来写真館 一本松坂

～伝説と歴史の交差点～

現在も当地には一本の大きな松があり、故に坂名の由来を探るべくもない。しかし周囲を坂に囲まれた一種独特の地形は、今をして一部の愛好家から“坂の聖地”と言わしめ、道標に示された伝説から今なお解き明かされていない数多の異説が飛び出してくる。解明されていないが故に「伝説」でしかないが、しばしお付き合いいただきたい。

「麻布一本松」
出典：「江戸の華名勝會 麻布」
東京都立中央図書館新収文庫
和書所蔵

源経基

道標によれば「源経基（みなもとのつねもと）などの伝説をもち、古来植えつがれている一本松が、坂の南側にあるための名である。（※道標原文ママ）」

「源」が名字（つまり“源氏”）で有名な人物は“源頼朝”や“源義経”なので今一つピンとこない名前だった。ご存知の方も多いとは思うが、彼は清和源氏の祖である。いうならば頼朝や義経の直接的ご先祖様になる。極端だが「武士の開祖」といって差し支えないと思う。一本松の彼にまつわる“伝説”とはどんなものなのだろうか。

天慶の乱

調べてみると、経基は平将門討伐に際し将門邸の偵察後に一宿を求め、翌朝着替えをしたときに装束をかけたのがこの一本松であった、とある。「宿泊して着替えをした」だけで伝説になるとは流石は「武士の開祖」だ。が、この話、現代に置き換えて考えても幾分大袈裟に感じられたので、経基の経歴をもう少しだけ辿ってみると、天慶の乱の遠因を成したと思われる話が出てくる。彼は承平8（938）年に中央（京都）から武蔵国に赴任した。そこで在地豪族・武蔵竹芝（地名ではない、人名なのだ。）と諍いをおこした。竹芝はこの調停を平将門に依頼し、経基はこれに反発し、結果的に中央に逃げ帰ることになる。

逃げ帰った経基は朝廷に「将門謀反」と報告する。朝廷の調査や、将門からの申し開きにより、経基は讒言の罪で左遷させられるのである。

今の表現でいうならば、中央から赴任した役人（経基）と地元の役人（竹芝）が権限を巡って争いになり、地元の有力政治家（将門）が仲裁に乗り出した。中央の役人は痛くプライドを傷つけられ、恨みつらみになってあることないこと上司に告げ口した挙句、逮捕・謹慎と相成る訳だ。いくら「開祖」とは言えこれは酷い様な気もするが、この経基の“あることないこと”は現実化してしまう。平将門は関東各地の国府（今で言う都庁・県庁にあたる）を次々に襲い、“新皇”を僭称。天慶3（940）年、後に「天慶（平将門）の乱」と呼ばれる内乱をおこす。これによって経基は一躍将門討伐軍の一員として返り咲くことになり、最前の着替えの装束をかけた“一本松”が伝説化することになったようだ。麻布が「歴史」の一幕となった出来事ともいえる。それにしても「武士の開祖（経基）」もとんだひと騒動である。

昭和34（1959）年：一本松　写真提供：港区立港郷土資料館

平成29（2017）年：写真右手に現在の一本松が。昭和34年時の写真と比べると大きく成長していることがわかる。

「麻布一本松」
出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館蔵

「麻布一本松の図」
出典：「新撰東京名所図会」港区立港郷土資料館蔵

現在の“一本松”

そんな一本松だが、現在の松は三代目とも五代目ともいわれ、相次ぐ焼失などにより植え継がれたもののようだ。麻布七不思議のひとつに数えられ、江戸時代から明治にかけての絵が伝えられている。様々な姿が描かれているのは植え継がれた証かもしれない。静かに佇む現在の一本松の雄姿を見上げ、遠い昔を掘り起こしていくと、より多くのエピソードに出会えるのではないだろうか。

（取材・文／田中康寛　撮影・編集／おおばまりか）

「麻布未来写真館」の活動をご紹介します

写真を通して麻布の歴史・文化を遺し、その価値を知ってもらいたい

「麻布未来写真館」は麻布地区総合支所の地域事業の一つで、麻布地区の昔の写真などの収集、定点写真の撮影を行っています。分科会メンバーによるまち歩き（撮影）やパネル制作、その成果としてのパネル展示を毎年度実施しています。今後は大学や企業との協働を視野に、活動の幅を広げていきます。

平成28年度パネル展
フジフイルムスクエアミニギャラリー、麻布地区総合支所ロビーなど計4か所でパネル展示を行いました。

メンバーの皆さん
幅広い年齢層の14名（平成29年4月1日現在）が活動中。「とても楽しいです。より多くの方の参加をお待ちしています」とラブ・コールが届いています。

これまでに作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

http://www.city.minato.tokyo.jp/

「麻布未来写真館」では

- 古い写真を募集しています
- パネル展の会場を探しています
- 新規メンバーを募集しています

お問合せ・お申込みは、麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当まで
電話／03-5114-8812

NH 44611 USS Swatara©NHHC

小川一眞なる人物をご存じだろうか。誰もが知る千円札の夏目漱石を撮った人である。当時カメラマンは「先駆的寫眞師」と呼ばれ、明治33年から44年頃(1900～1911)、麻布区宮村町71に住んでいた。ここはかつて「内田山」と呼ばれた高台で、南アフリカ共和国大使公邸周辺に広がる元麻布三丁目にあたる。また、麻布区霞町弐番地(現西麻布一丁目)には「転合庵」という茶室つきの別邸をかまえ、園遊会を開いていたというから、その繁栄ぶりが伺える。一眞は、いかにこの地に辿りついたのだろうか。

万延元年8月15日(1860.9.29)–昭和4年(1929) 9月6日
『創業紀念 参十年誌』(行田市郷土博物館所蔵)掲載

麻布の軌跡

寫眞師 小川一眞

かずまさ
いっしん
かずま
複数の呼名あり

明治生まれのイノベーター

小川一眞は、武州忍藩(現埼玉県行田市)小普請組 原田庄左衛門の次男に生まれた。3歳で父の同僚 小川石太郎の養子となり、朝之助から一眞へと改名。6歳から藩校培根堂で英才教育を受け、8歳で明治元年(1868)を迎えた。13歳で旧忍藩主松平忠敬の援助を受けると東京の報国学舎へ進み、土木工学を専攻。ここでカメラ好きの英国人教師と出会い、写真を知った。卒業後は学資のメドなく地元に帰り、熊谷の写真師の下で働きながら湿板法を学び、17歳で独立。製糸場の建設で賑わう上州(現群馬県)富岡町に写場を開いた。官営富岡製糸場には全国から旧士族の娘たちが集まり、女子工員として月給約2円の労働をしていたという。1枚75銭の写真は高額だったが、繁盛した。稼いだ資金を元手に20歳で再び上京、築地バラ学校に入学。翌年、博覧会にだした写真が入賞すると欧米の最新技術に興味がわき、22歳でいったん機材は売却し、横浜警察署の通訳になった。

明治15年(1882)、米国東洋艦隊「スワタラ号」が横浜に入港すると水兵に志願し、同年7月7日、親にも内緒で単身ボストンへと旅立った。面接の際、“金は一文もない。どんな苦労をも厭わない。写真屋へ奉公して技術を習得したいのだ”と懇願した。司令官のクーパー少将は南北戦争で活躍した勇者だったが、5か月におよぶ海上勤務では、過酷な任務を全うする不屈の精神と実践力が試された。途中、嵐に襲われ死者もでた。航海を終える時、一眞には褒状が送られた。クーパー少将とスパイサー大尉からは紹介状と、しばらくヴァーモント州ブラトルボロに住む少将の母のところに世話になるよう添状まで渡された。山村の停車場についたのは積雪の12月。北緯42度、ほぼ札幌の寒さに値する。駅前の交番に立ち寄ると巡査は雪靴を履かせ、深夜の道案内をしてくれた。突然の訪問者に驚いた老婆も日曜日には一眞を教会へ連れて行き、人々は青年の夢を叶えようと情報を寄せ合った。のちに、ボストン中心街のフォトスタジオ(Ritz & Hastings)で職を得た。経営者の一人がスパイサー大尉の知り合いで、紹介状が功をなした。

米国の写真界はまさに技術革新の時代にあった。一眞は乾板法、カーボン印画法、コロタイプ印刷法を学び、明治17年(1884)帰国。最新技法の国産化と実用化、その普及に努めた。宮内省の古社寺宝物調査では写真撮影を担い、岡倉天心との『國華』創刊ではコロタイプ印刷を担当した。一方で、日本初の美人コンテストに向け芸者や令嬢たちを撮影し、写真を大衆化・商業化へと導いた。皆既日蝕や濃尾大地震の記録、日清・日露戦争、紫禁城における報道写真など、マスメディアの発展にも貢献した。秘密主義的な日本の子弟関係や独占を嫌い、習得した技術と知識はオープンソース化し、写真家、実業家、教育者としても日本の写真界・印刷界を牽引した。

人望という名の富

写真師として最高の多額納税者に登りつめた一眞だが、その軌跡には人徳も備えていたことが伺える。渡米時代、生活は苦しく、留学生仲間たちは様々な協力をした。たとえば、友人のひとり(榊原浩逸)が英国に留学中の上司 岡部長職(ザ・AZABU36号「丹波谷坂」)にSOSを送ると、学資の援助と激励の手紙が一眞に届いた。それが岡部との最初の出会いとなる。帰国後、麹町区飯田町に小川写真館「玉潤館」を創業する際も、その名称と資金は岡部が出した。日光や富士山を題材とした外国人向けの写真帖を手がけるよう事業の助言もした。富士山の写真は、静岡にある岡部の別荘から撮影されたものが多い。岡部は旧岸和田藩の最後の藩主で、外務次官、司法大臣、東京府知事を務めた名士。財界および社交界で一眞を引き立てた。

また、一眞は実業家として乾板製造所や写真製版工場を設立し、写真館・写真製版所を併設して、写真・印刷・出版のトータルビジネスを手がけたが、その資金調達には友人 増島六一郎も協力している。増島と言えば、毛利甲斐守邸跡(現六本木ヒルズ毛利庭園)に住んでいた日本初の法廷弁護士。三菱・岩崎弥太郎の援助により英国で学んだ法律家で、英吉利法律学校(現中央大学)の創立に関わり、初代校長を務めた。三菱と一眞を仲介する形で、増島が保証人になった記録も残っている。

飯倉在住の執行弘道(ザ・AZABU32号「麻布の軌跡」)とは、国内外の富裕層、美術収集家に向け『日本美術帖』全12巻を発行した。大きな挟板入りの美術誌(50㎝×20㎝)は、教師の初任給が30円の時代に全6頁、月1発行で1巻150円。酒井抱一や鈴木其一をはじめ、日本美術の名画が流暢な英語と日本語で紹介されている。

三度の結婚

最初の結婚は、一眞24歳。群馬県鬼石町(現藤岡市)の飯塚與一郎の娘 市子を妻に迎え、長男一雄が生まれた。つづく長女と次男は夭逝し、妻も病で失った。やがて名古屋の女性 花子と再婚するが、再び死別。43歳で板垣退助の三女 婉子と結ばれた。板垣は、娘を託す見合いの席で一眞の立ち振る舞いから“君は士か”と評したという。明治36年(1903)11月23日付東京朝日新聞では祝宴の様子を「22日の1時から朝野の紳士を内田山の邸に招いて園遊会を開き、庭園には天ぷら、甘酒、焼芋等の店があり、新橋の阿嬌が周旋し、余興に園遊一座の落語や手品があり、最後に立食が振舞われた」と伝えている*。婉子は愛国婦人会麻布支部幹事などを務め、大正15年(1926) 4月28日、平塚にて逝去。

一眞も、昭和4年(1929) 9月6日、永眠の途についた。享年70歳。

＊婉子との結婚は、“明治38年頃”が通説だが、加藤正義から一眞に宛てた明治36年6月30日付の書簡(行田市郷土博物館所蔵)にも「今般婚儀首尾能御整幾久敷芽出度奉祝候、此品甚タ軽少之至ニ候得共右御祝之段迄ニ進呈仕候間受納可被下候」とある。

小堀遠州作の茶室「転合庵」。
1878年、渡辺清が京都から麻布へ移築。
東京国立博物館に現存している。
写真提供:東京国立博物館

1893年シカゴ万国博覧会にて
左から一眞、執行弘道、増島六一郎
『創業紀念 参十年誌』(行田市郷土博物館所蔵)掲載

前列右より2番目に妻婉子、その後ろに一眞
写真中央に板垣退助、左隣にその妻絹子
『創業紀念 参十年誌』(行田市郷土博物館所蔵)掲載

●リサーチ協力
港区立みなと図書館 荒勝陽子さん、小野真紀子さん、山崎和子さん
行田市郷土博物館 鈴木紀三雄さん
一般財団法人 日本カメラ財団(JCII)
公益財団法人 日本近代文学館
財務省大臣官房文書課

●主な参考文献

小川同窓会編『創業紀念 参十年誌』小川一眞出版部.
小澤清『写真界の先覚 小川一真の生涯』近代文藝社.
執行弘道編『日本美術帖』小川一眞.
行田市郷土博物館編『百年前にみた日本 小川一真と幕末・明治の写真』行田市郷土博物館.
行田市郷土博物館編『小川一真関係資料目録』行田市郷土博物館.
「小川一眞氏結婚披露」『東京朝日新聞』明治36年(1903)11月23日朝刊.
「轉居 三原繁吉」『東京朝日新聞』大正6年(1917) 12月7日.
“Swatara II (ScSlp)”Naval History and Heritage Command.
https://www.history.navy.mil/research/histories/ship-histories/danfs/s/swatara-ii.html

(取材・文／小池澄枝)

麻布地区地域サロン事業 “ちょこっと立ち寄りカフェ”に来てみませんか

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。カフェでは、地域のボランティアスタッフがお迎えし、どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりやイベントを楽しんでいただけます。毎月麻布地区のいきいきプラザ4館で開催していますので、まずはお近くの会場に立ち寄ってみませんか。

会場及び内容（予定）

イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆飯倉いきいきプラザ　東麻布2-16-11
- 7/5（水）「ボランティアによるお楽しみ会」
- 9/6（水）「ボランティアによるお楽しみ会」

◆ありすいきいきプラザ　南麻布4-6-7
- 7/13（木）「語りと朗読会」
- 9/14（木）「さわやかレディース演奏」

◆西麻布いきいきプラザ　西麻布2-13-3
- 7/20（木）「茶話会」
- 9/21（木）「茶話会」

◆南麻布いきいきプラザ　南麻布1-5-26
- 7/26（水）「麻布の歴史を語ろう」
- 9/27（水）「皆で手作り」

時　間　毎回 午後1時30分から午後3時30分まで
対　象　どなたでも
参加費　100円（茶菓子代含む）
申込み　不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係
電話／03-5114-8822

「麻布を語る会　麻布地区政策分科会」が検討成果を区長へ提言しました

本年3月24日（金）に、「各地区区民参画組織提言式」が開催され、区民参画組織「麻布を語る会　麻布地区政策分科会」が、麻布地区総合支所の地域事業について議論を重ねてきた成果を、武井雅昭港区長へ提言しました。

麻布地区政策分科会の皆さんがまとめた「港区基本計画・麻布地区版計画書の見直しに向けた提言書」は、麻布地区総合支所協働推進課窓口または区のホームページでご覧になることができます。

港区ホームページ
http://www.city.minato.tokyo.jp/
麻布地区政策分科会　検索

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課
地区政策担当
電話／03-5114-8812

第67回“社会を明るくする運動” 第14回青少年健全育成大会in六本木を開催します

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、今年で67回目を迎えます。皆さんお誘いあわせの上、ぜひお越しください。

日時　平成29年7月8日（土）
式典・コンサート：午後1時25分～午後3時45分
パレード：午後4時～午後4時40分

会場　式典・コンサート：六本木ヒルズアリーナ（港区六本木6丁目10番1号）
パレード：六本木ヒルズアリーナ～けやき坂～麻布十番商店街～一の橋入口

当日の注意事項　悪天候の場合、中止することがあります。式典・コンサートは、当日午前9時、パレードは午後3時から、みなとコールで、開催の有無をご案内します。
みなとコール／03-5472-3710

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／03-5114-8802
保健福祉支援部保健福祉課福祉活動支援係　電話／03-3578-2379

麻布消防署からのお知らせ

熱中症に気をつけましょう！

梅雨が明けると、まもなく本格的な夏の暑さがやってきます。

熱中症は屋外だけでなく、屋内でも発生します。室内にいる時も部屋の温度に注意して、こまめな水分補給を心がけましょう。

●行動の工夫
- ・日陰を選んで歩く　・涼しい場所に避難する
- ・適宜休憩する　・天気予報を参考にして外出を検討する

●衣服の工夫
- ・吸汗・速乾素材等を活用する
- ・襟元はゆるめて通気する　・日傘や帽子を使う

●住まいの工夫
- ・外部の熱を断熱する（ブラインドやすだれ、日射遮断フィルム等）
- ・風通しを利用する（網戸・吹き抜け等）
- ・空調設備を利用する（我慢せずに冷房を入れる）
- ・のどが渇く前あるいは暑いところに出る前から水分を補給する

お問合せ／麻布消防署予防課防火管理係　電話／03-3470-0119

「六本木安全安心憲章」賑わい綺麗なまち六本木を目指して

「六本木安全安心憲章」に賛同していただける店舗・事業所等を募集中！！

区では、六本木地区の安全安心に向けた独自ルールである六本木安全安心憲章を周知する取組の一環として、憲章に賛同していただける店舗・事業所等を募集しています。

募集概要

対象　六本木地区（六本木3～7丁目、赤坂9丁目7番）で主として活動する店舗・事業所等。

申込　賛同書をホームページ等から入手し、麻布地区総合支所協働推進課へ提出してください。賛同事務所等は区のホームページや地域情報紙等に掲載します。

「六本木安全安心憲章」については、こちらから
港区ホームページ http://www.city.minato.tokyo.jp/
六本木安全安心憲章　検索

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係　電話／03-5114-8802

都税事務所からのお知らせ

平成29年度の固定資産税・都市計画税の軽減措置についてお知らせします（23区内）

①商業地等に対する固定資産税・都市計画税の負担水準の上限引下げ減額措置 ②小規模非住宅用地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置 ③小規模住宅用地に対する都市計画税の軽減措置については、平成29年度も継続します。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ

お問合せ／港区にある物件について
港都税事務所　電話／03-5549-3800（代表）

都税の納付には、安心・便利な口座振替をご利用ください

口座振替は、預貯金口座から納期の末日（納期限）に自動的に納税できる制度です。開始月の前月の10日（土・日・休日にあたるときはその翌開庁日）までにお申込みください。

＜口座振替がご利用できる都税＞

個人事業税、固定資産税・都市計画税（土地・家屋）※、固定資産税（償却資産）※

※23区内に所在する資産が対象です。なお、随時課税分については口座振替のご利用はできません。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ

お問合せ／徴収部納税推進課　電話／03-3252-0955（平日9時～17時）

港区麻布地区総合支所だより

みんなのアイデアでまちを変える　～平成29年度「みんな」でまちを「よく」する『ミナヨク』メンバー募集～

みんなで
まちをよくする
ミナヨク

港区麻布地区総合支所では、「今の時代に合った新しい地域づくりの在り方を検討すること」、「次世代のまちの担い手を発掘・育成すること」を目的として、地域コミュニティ活性化事業である「ミナヨク」を実施しています。

ミナヨク“メソッド”

ミナヨクでは、「麻布」というまちを学び知り、地域の課題解決に向けたアイデアを考え、自らが主体的に地域に関わることで、「麻布」への愛着を醸成します。

1 アイデアを生む
地域をよく知り、
地域をよくするアイデアをつくる

2 アイデアを試す
街で実行する、共感する仲間をつくる

3 地域に根付く
街の中に様々な変化が起こる

これまでの取り組み

平成27年度の1期、平成28年度の2期では、それぞれ約20名のメンバーで、様々なゲストとの対話、フィールドワーク、地域課題解決のためのアイデア検討、発表等を実施しました。

GUEST TALK → FIELD WORK → DESIGN THINKING → PRESENTATION

GUEST TALK	FIELD WORK	DESIGN THINKING	PRESENTATION
麻布地区のことやアイデアの作り方を知る	麻布地区を実際に見て、話を聞き、感じる	グループで麻布地区をよくするアイデアを創る	地域の皆さんに発表し、共感してもらう

ミナヨクの取組を紹介するとともに、皆様の質問にもお答えします。
ご興味がある方、参加を迷っている方、どなたでも、ぜひお気軽にご参加ください。

ミナヨク告知イベントを開催します！

日　時　平成29年7月19日（水）19：00 ～
場　所　HAB-YU Platform
（港区六本木1-4-5　アークヒルズサウスタワー 3F）
※事前申込不要です。直接会場にお越しください。

平成29年度「ミナヨク」メンバー募集のお知らせ

平成29年8月から、全7日間の少人数制プログラムを実施します。仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、地域の活性化に取り組む若い人材を募集します。

ゲストやプログラムの最新情報はこちら▶

●**開催日程（予定）**　※原則、全日程にご参加ください。

Day1	平成29年8月23日（水）	19：00～21：30	地域を知る①
Day2	平成29年9月1日（金）	19：00～21：00	地域を知る②＋ゲストトーク
Day3	平成29年9月6日（水）	19：00～21：30	デザイン思考講座＋テーマ作り
Day4	平成29年9月16日（土）	8：45～17：00	フィールドワーク＋チームビルディング
Day5	平成29年9月23日（土）	9：00～17：00	アイデアをかたちに
Day6	平成29年10月14日（土）	9：30～17：00	カンファレンス
Day7	平成29年11月10日（金）	19：00～21：30	振り返り＋修了式

会　場　HAB-YU Platform（港区六本木1-4-5　アークヒルズサウスタワー 3F）
http://hab-yu.tokyo/
対　象　20 ～ 40代の地域の担い手となる以下に該当する方
●まちの活性化に取り組む意欲のある方
●麻布でのコミュニティデザインに興味・関心のある方（学生、子育て世代、働いている方など）
定　員　約20名　※応募多数の場合、港区在住・在勤・在学の方を優先させていただく場合があります。
参 加 費　無料
応募方法　以下のいずれかの方法でお申し込みください。
①区HP応募フォーム（右のQRコードから送信してください）
②参加申込書※1をご記入のうえ、郵送してください。
※1　右QRコードのページからダウンロードできるほか、麻布地区総合支所協働推進課でも配布しています。
〈区HP応募フォーム〉
応募期間　平成29年8月4日（金）まで
お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当　電話／03-5114-8812

平成29年度港区総合防災訓練（麻布会場）を実施します ～どなたでも参加可能です～

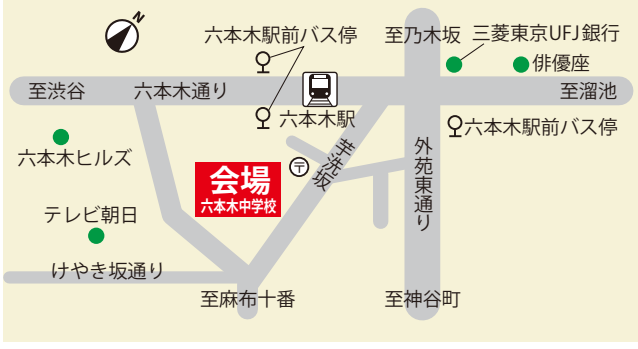
「自助」意識の向上を目指そう！～災害時には、地域での協力に加えて、個人の備えも必要です～

今回の総合防災訓練では、今後30年以内に70％の確率で発生すると言われているM7クラスの「首都直下地震」が発生して、多くの建物および人的被害が出たことを想定し、さまざまな訓練を行います。訓練に参加していただくことで、一人ひとりの防災意識の向上や「災害発生時に的確な行動をとり、自分が何をするべきか」について考える良い機会になります。

大規模災害から自分や家族の命、地域を守るためにも、ぜひ港区総合防災訓練（麻布会場）にご参加ください。
※詳細は、次号（41号）でご案内いたします。

日　時　平成29年10月22日（日）
9:30 ～ 11:30　予定
場　所　港区立六本木中学校
校庭及び体育館
六本木6-8-16

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課
協働推進係
電話／03-5114-8802



買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せくだサイ

住所・氏名・職業（学校名）・電話番号・ご意見・ご要望（日本語又は英語、字数・様式自由）を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電　話／03-5114-8812　●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。
「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちぃばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief　田中亜紀
Sub Chief　高柳由紀子
Staff　石川味季　中嶋　恵　出石供子　畑中みな子　大澤佳枝　堀内明子　おおばまりか　森　明　大村公美子　山下良蔵　加生武秀　米沢恵美　加生美佐保　渡邊香奈　小池澄枝　渡辺久剛　田中康寛

編集後記

大使館の取材で、その国を改めて知ることができ、麻布未来写真館で時代の変化を目のあたりにし、そして各タイトルにちなんだ人・物・場所を取材するたびに、新たな発見があります。驚きと感動で、まさしく事実は小説より“奇”なり、“貴”なりです。後世、『ザ・AZABU』は歴史の貴重な参考資料となる！・・かも。

（加生美佐保）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。
年中無休／午前7:00 ～午後11:00　※英語での対応もいたします。

電　話／03-5472-3710　FAX ／03-5777-8752
Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. – 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; , E-mail: info@minato.call-center.jp